

花ノ木

第 106 号

令和 2 年 1 月 26 日

花ノ木医療
福祉センター

電話 0771-23-0701

FAX 0771-22-8348

初心に戻って

―地域社会と共感を―

社会福祉法人花ノ木

理事長 山内

一



明けましておめでとうございます。本年も引き続きよろしくお願いいたします。今年の干支は「子」、干支の最初に戻り改めてスタートの年となります。

また、「やまゆり園事件」の初公判が一月八日に行われました。どうしたことがこうし

た凶悪な事件を起こさせたのか明らかになることを願うとともに、これを受け今の時代を反映して出るいろんな意見や発言に注意する必要があります。

昨年全国重症心身障害児者を守る会創立五十五周年記念大会での記念講演でも、時代を見据えてか「守る会の理念を確認する」と題して、今の時代における立ち位置を講師の方が述べておられます。人の命の尊さと等しさです。

現在は景気が思わしくなく、社会に豊かさが実感できない時代です。そのため、経済活動優先の想いが充満していると言っても過言ではありません。生活する、生活にゆとりをもたらず経済活動の大事さは言うでもありませんが、経済活動を行う点で改めて気付かせたことがあります。

先に述べた記念講演での渋沢栄一氏の救護法の制定の功績であり

ました。氏は、四年後に一万円紙幣に登場しますが、近代日本の資本主義の功労者として知られています。氏が日本赤十字社の設立のほか、経済活動の前提として人の命の尊さを理解し、そのための法律の制定に最後の人生を懸けて活動していたという事実を知らされたところでもあります。

同じように、イギリスの「国富論」の著者として知られるアダム・スミスも、哲学教授として「道徳感情論」第四版改訂で、「他人の感情や行為の適切さを判断する（くみ取る）心の作用＝共感」を基礎とすることで社会秩序がもたらされると新たに明確化します。この後書いた「国富論」に登場する「神の見えざる手」も「共感」を前提にしていると最近の経済学の中では解されています。

少し横道にそれましたが、新しい十二支のスタートにあたり、われわれも初心に帰り、児童福祉施設としての重症心身障害児入所施設として、入所者の豊かな生活への支援を基礎に、地域社会に共感されるよう事業を行っていくスタートの年にしなくてはならない

と思っっています。

具体的には、入所者にとって豊かな生活をもたらす施設の改善計画づくり、地域社会に共感される在宅支援としての短期入所や通所、リハビリのあり方、発達障害の対象年齢の拡大といった事業展開などが考えられます。加えて、設立六十周年まであと八年。新しい時代に施設がどうあるべきかも方向性を示したいと考えております。

さらに、府内の在宅の重症心身障害児者の状況把握も同時並行で進めねばならない課題です。行政ともタイアップして取り組まねばならない緊急課題だと思っています。これが基となって地域貢献が可能になる重要なものだからです。

課題山積ではありますが、重症心身障害児者と人として接する事に誇りを持つという初心に立つて、こうした課題に取り組んで行きますので、皆さんの共感をいただき、協力をお願いするとともに、皆さんが健康で過ごされますよう祈念して新年の挨拶といたします。

クリスマス会特集



第一病棟

あわてんぼうのインフルエンザ
今年のクリスマス会のテーマは「クリスマスダンスパーティー」を予定していました。

クリスマスソングと昭和歌謡曲で2種類のメドレーを作成し、会場いっぱい広がって職員がタッピングしたり、車椅子で回ったりのノリノリの振り付けを考えていました。

職員ダンシングチームがプレゼントの箱から飛び出して、「ダンスのプレゼント」も企画していました。

12月に入ってから、クリスマスツリーや居室前の飾りつけ、食事時のクリスマスソングで雰囲気作りを進めていました。

利用者さんからは「プレゼント、西友に買いにいかんあかんあ」「サンタクロス来なあかんあ」「どこですの?」と楽しみにしてもらっていました。



職員も一緒に盛り上がる楽しみにしていました。

なのに！例年よりあわてんぼうのインフルエンザがやって来て、クリスマス会は出来ませんでした。サンタが「いや〜遅くなってゴメンね〜」と「パプリカ」踊りながらプレゼント抱えて豆まきに来てくれないかなあと期待している今日この頃です。

(第一病棟 生活支援員 井関るみ子)

第二病棟

令和元年12月18日第二病棟のクリスマス会をランチルームで行いました。

今年も、10月頃より利用者さんから「もー、クリスマスやなあー。」「今年も、司会する。」等、楽しみにしている声があり、準備を始めました。

集団活動の時間にポスターや居室の飾り作りに取り組み、12月には病棟のイルミネーションも始まり、雰囲気も出てきました。

今回は、予定していた外部の方を招いてのクリスマス演奏会中止になりましたが、当日司会は利用者の方にも手伝ってもらい、1部はクリスマスソング合奏会、2部はティータイムを行いました。

1部では、「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」等を歌い、時には持っている楽器を鳴らし、そして



最後には、分校の先生方よりハンドベル演奏のサプライズプレゼントもあり、たくさん笑顔が見られました。2部では経口摂取できずの方で集まり、シャンメリーやミックスジュース等から選んでもらい美味しそうに飲んでおられました。経管栄養者の方にも昼食時にジュースを注入してもらう事ができ、皆さん楽しんで頂けたクリスマス会になったかなと思います。(第二病棟 生活支援員 山内孝子)

第三病棟

毎年病棟の皆さんが楽しみにしているクリスマス会ですが、今年は、第三病棟プレゼント、劇ありゲームあり歌あり！のスペシャルステージをお届けしました。



まず最初に登場したのは、サンタクロスと相棒のトナカイ。花ノ木の皆にクリスマスプレゼントを届けるぞ！あれ、でもプレゼントがないぞ？プレゼントを探す一人と一匹の前に突如として現れたのは、恐ろしい雪の女王！「少しも寒くないわ」と決めポーズをして、真っ白な段ボールで作った氷の城でプレゼント探しの邪魔をします。そこからは白熱の氷の城(段ボール)崩しゲーム！ボールだけではなく、手や足を作って、そびえ立つ氷の城を皆で力合わせて壊しました。氷の城が壊れると、雪の女王は姿を消します。どうやら歌の力が必要なようです、というサンタのかけ声と共に、皆で「あかはなのトナカイ」を合唱。歌い終わると、光の杖を持った雪の女王がクリスマスプレゼントを

持つて再び現れてくれました。
皆さん、綺麗にラッピングされた
プレゼントと大好きなジュースに興
味津々！和気あいあいとした楽しい
雰囲気、笑顔と笑い声が溢れるク
リスマス会になりました。

(第三病棟 生活支援員 飯田真菜)

第五病棟

12月17日に第五病棟のクリスマス
会を行いました。当初は多目的室で
の予定でしたが、インフルエンザ拡
大の影響で急遽病棟内での実施とな
りました。

当日は朝から病棟内でクリスマス
ソングを鳴らして気分を盛り上げつ
つ、会場となる詰所前をきれいに飾
りつけました。昼食にはいつもより



豪華なクリスマス仕様のデザートを出してもらって、特別感のある食事を楽しみました。「サンタさん来るかな？」「プレゼント何かかな？」と午後のクリスマス会への期待は膨らみます。

午後、詰所前にみんなが集まり、

1人ずつ赤いサンタ帽子を被っても
らい、会場は可愛いサンタさんでい
っぱいです。まず職員による絵本の
読み聞かせと寸劇を行いました。数
名の利用者さんにも登場してもらい、
会場のみんなで雪合戦をしたり、ツ
リーに飾りつけをしたり、クリスマ
スソングに合わせて歌ったり楽器を
鳴らしたり、クリスマスの1日を楽
しむという内容でした。実際に雪合
戦ではカラーボールを投げてもらっ
たり、病棟のクリスマスツリーに飾
りをつけてもらったり、みんなが参
加できたのがよかったです。

最後は恒例のサンタクロースの登
場です。昨年続きお馴染みの入所
者さんがサンタとトナカイに扮して
プレゼントを持ってきてくれました。
大きな袋にいっぱい入ったプレゼン
トを1つずつ開封して紹介しました。
珍しい楽器や本物みたいな猫のぬい
ぐるみなど、今後の活動が楽しみに
なるものがいっぱいでした。大切に
使っていきたいと思います。インフ
ルエンザが流行する中、無事にクリ
スマス会を迎えられて本当によかつ
たです。

(第五病棟 生活支援員 松本聡美)

12月23日、通所のクリスマス会が
開催され、利用者さんのご家族と共
に楽しい時間を過ごしました。

まず、6名の女性職員による、よ
し笛演奏です。よし笛は琵琶湖の葦
で作られており、1本1本手作り、

はなのき通所

微妙に音色の
違う繊細な楽
器です。よし
笛を習ってい
る職員の根気
強い指導の元、
全くの初心者
ながら、常々
好奇心旺盛な
私たちは、ア
メイジンググ
レイスを含む
4曲のクリス
マスソングを
猛練習して本
番に臨みまし
た。多少お聞
き苦しい所も
あったと思
いますが、皆さ
ん一緒に口ず
さんで下さり、
温かい雰囲気
で大いに盛り
上がりまし
た。

次はメイン



イベント、みんなでカラオケです。
曲目は昔懐かしい「愛の軌跡」や「川
の流れのように」等の昭和歌謡と「さ
んぽ」等お馴染みの童謡が中心で、
私たちと同年代のご家族と利用者さ
んとで、大合唱となりました。また
芸達者な職員の司会は、笑いの連続
でまたまた大盛り上がりとなりました。

その後は、職員サンタによるクリ
スマスプレゼント渡しで、大笑いの
中瞬く間に時間が過ぎて行きました。

最後はこの1年間の活動や外出時
の写真のスライド上映会です。こ
んなに素敵な表情をされるんだと、心
温まる1枚1枚の写真に、何度も胸
が熱くなりました。クリスマス会は、
ご家族と利用者さんと職員が、楽し
い時間を一緒に過ごせた1年最後の
大イベントとなりました。

(通所係 看護師 川島公恵)



掲示板

簡単調理 ～嚥下困難な人への食事提供～を開催

令和元年11月27日(水) 地域向け情報発信事業として、簡単調理～嚥下困難な人への食事提供～を開催しました。

参加者は栄養士・調理師・ヘルパー・指導員等、様々な職種合計16名が参加されました。電子レンジ調理では、時間短縮で簡単に作れる事を目的に紹介しているため、時短調理で美味しく作りたいヘルパー・栄養士さんからは、いつも好評を得ています。

花ノ木提供の段階食「おでん」では、近年栄養士・調理師界では話題となっている「嚥下調整食」の紹介をしました。嚥下調整食を簡単に説明すると、中華料理でよくある「あんかけ」はトロツとしていて食べやすいのですが、嚥下困難者にとってはトロミを付けているあんが片栗粉(ゼリー化剤)を使用している為、唾液の成分に分解されて最後は水状になり食べにくい食事とされています。ゼリー化剤と唾液に分解されない増粘剤を合わせてトロミをつけた料理を嚥下調整食と言います。今回の「おでん」では、こんにゃく・大根・茹でたまご(はゼリー食に、ちくわを嚥下調整食に展開しました。今まではこんにゃくや茹でたまご、ましてやちくわなんて、嚥下困難者には不適切食材だとされてきましたが、こんにゃくは三角こんにゃくに見えるように作り、大根は輪切り大根に見える嚥下調整食に作ると、食べやすさと美味しさに参加者は驚かされていました。

お粥シリーズでは、内科的治療の必要が無く、嚥下困難なだけのお粥を選択せざるを得ない人は、どんな時も白粥という点を無くしたいという考えに、栄養士・調理師から共感を持たれたと評価をいただきました。

美味しい食事とは何でしょう？
美味しいという定義は幅広く、甘くておいしいや辛くて美味しい、ま



たはパリパリして美味しい、軟らかくて美味しいなど美味しさには色々なタイプがあります。更に個人の嗜好も関連してくる難しい表現の一つです。嚥下困難者にとつての美味しい食事とは、いつも自問自答しています。

私が花ノ木へ来る前は、何でも丼にして食べさせていたと聞きます。それでは何を食べても同じような食事に思えます。嚥下困難者にとつて美味しい食事は、食欲をそそる食事ではないかと考え、出来るだけ料理が何か解るようになってきました。これからも美味しく食欲をそそる料理を紹介していきたいと思えます。

給食係 調理師 喜田吉昭

※当日のレシピは、花ノ木ホームページ
(<https://kyoto-hananoki.jp/>)をご覧ください。

花ノ木の動き

令和元年十一月一日～令和元年十二月三十一日

- 11/5 所内研修「人権・虐待及び身体拘束防止」
明治国際医療大学看護実習(28)
- 9 情報発信事業「食事支援のための講習会」
はなのき通所「つどい」
- 11 所内研修「感染対策・基礎知識」
停電時対応訓練
- 14 情報発信事業「簡単クッキング」
- 22 所内研修「健康講座・腰痛対策」
- 27 所内研修「感染対策・基礎技術」
- 28 通園棟・医療管理棟・児童発達支援センター
防災訓練
- 5 所内研修「防犯研修」
- 11 明治国際医療大学看護実習(13)
- 12 大原医療福祉製菓専門学校校社会福祉士実習
(25)
- 17 第五病棟クリスマス会
- 18 第二病棟クリスマス会
- 19 第一病棟クリスマス会(未実施)
- 22 第三病棟クリスマス会
- 23 はなのき通所クリスマス会
- 27 仕事納めの式

ありがとうございました 寄付・寄贈 (敬称略)

- ◎寄附 永野耕作
- ◎寄贈 しん愛(ショートケーキ)、亀岡市社会福祉協議会(みかん、タオル 他)、他1名(米)

編集後記

▼元号が令和になって初めての年が明けました。昨年
はアジアで初の開催となったラグビーワールドカップ
で日本が初のベスト8入りを果たし、武士道の意味合
いを込めて「兜」をコンセプトとしてデザインされた
桜のジャージを着た、にわかファンも加わり、ルール
はさておき日本中が夢中になり感動したのは間違いな
く、「チーム一丸となって」という言葉を久々に聞い
たように感じました。▼今年はおリンピック・パラリ
ンピックが日本で開催され更なる盛り上がりが見られ
ます。▼地元亀岡では、それぞれ問題を抱えながらも、
京都スタジアムの完成、大河ドラマ「麒麟がくる」、
レジ袋問題など話題性では全国区に名を連ねたのでは
ないでしょうか?▼年々急な動作ができず、柔軟性も
無くなってくるのを実感しつつ、人生100年と言え
ないまでも、動ける身と頭を持続するために、今年も
意識して歩きたいと思えます。

▼年明けから焦臭いニュース
が流れて来ていますが、花ノ
木からは平和で明るい情報をお
届け出来ればと思います。
今年もよろしくお願ひいた
します

(編集委員 俣野一博)

